
a nose hair

漆原恭太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

a nose hair

【Nコード】

N3181L

【作者名】

漆原恭太郎

【あらすじ】

電車の中で見た光景……

夜行バスにゆられ故郷から戻ってきた。いつもは新幹線だが、今回はチケットが取れず、しょうがなく夜行バスになった。到着したのは、朝七時半。バスの中ではあまりねむれず、音楽を聴いたり、本を読んで時間を潰した。バスを降りると良く晴れていた。

冬の早朝の街は綺麗だ。空気が澄んでいる感じがする。眠かったので寄り道せずに駅に向かった。電車の中は朝早く、休日のせいか人もまばらだった。

電車の中で読んでいた本の続きを読もうと思ったが、暖房の暖かさで睡眠不足で一気に眠気が襲ってきたせいで、本を読むことは困難だった。眠ってしまいそうだったが、乗り過ごすとまずいので音楽を聴きながらなんとか我慢した。

乗り換えの駅で、電車を降り、外気に触れると眠気が覚めた。乗り換えの電車を待ちながら、帰省する前に部屋の掃除をしていなかったことを思い出していた。しかし、眠いのでまずは眠ろうと思った。掃除をするのは後回しだ。

電車が到着し、乗り込む。人はあまりいなかったので座席に座る。手荷物がやけに重く感じられた。また眠気が襲ってきた。ふと、顔を上げると、親子連れが向かいの席に座っていた。父親と母親、そして子供。父親は白髪交じりの眼鏡をかけたおじさん。母親はもう少し若く、肩くらいまでの黒髪、そして母親も眼鏡をかけている。子供は三歳から五歳くらいだと思う。

父親が子供をあやしていたが、子供の顔を覗き込み言った

「鼻毛出てるな」

母親はとても悲しそうな顔で、そう？ と呟いた。

あんなに悲しそうな顔の人間を久しぶりに見た。子供が母親をあんなに悲しませるなんて……直接的には父親の発言だったのだからが……。しかし鼻毛が出ているのは子供自身だ。子供が母親をあんなに悲しませてはいけない。

その後、特に会話もなのまま父親は子供をあやし続けていた。母親はその様子を俯き加減で悲しそうな表情のまま見守っていた。

電車が地元の駅に到着した。そのまま自宅に向かい、帰るとすぐに鏡の前に立ち、鼻毛が出ていないか確認した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3181/>

a nose hair

2010年10月18日18時17分発行